

重点施策評価検証シートの補足説明資料

項目	1 子どもに寄り添うまちづくり
総合評価	C 評価指標について、目標の達成状況にバラつきはあるが、スクールソーシャルワーカーの設置による支援や小中学校を中心としたふるさと共育の推進など、新たな取り組みが成果の芽を育みつつある。長期的な展望に基づく取り組みの継続性と積み重ねを重視して、事業を継続する。一方で、子どもを取り巻く環境のコロナ禍による変化の影響は大きなものであり、子どもの適切な発育発達のための環境を守るため、必要な対応を適宜進める。

1. 評価指標に関する補足説明

評価指標	目標値	中間	評価	着手状況、評価の根拠
①子どもが被害者となる事件の件数	0件	0件	A	スクールソーシャルワーカーを新たに設置し、子育て期から切れ目なく、複合的な課題に対応できる相談体制を新たに構築している。充実を図ったサポート体制を継続し、指標の達成を見込む。
②全国学力学習状況調査で正答率が全国平均の5割に満たない児童生徒の割合	10.6%から減少	12.1%	E	数値として目標に達していないためE評価。取組みとしては後退しているわけではなく、個別の学習支援体制の充実や、学習支援員、特別教育支援員の配置に継続して取り組んでおり、体制の充実を継続し、成果の発現を見込む。
③運動を好きな子どもの割合	84.5%から増加	86.9%	C	策定時点から数値が上昇している。関連事業として、コーディネーショントレーニングの学校教育課程での実施など、新たな環境整備も進んだ。別途、総合型スポーツクラブ設立に向けた取組みもあり、子どもを取り巻くスポーツ環境の充実に引き続き努める。
④自己肯定感の高い子どもの割合	86.0%から増加	82.4%	E	数値としては減少しているためE評価。関連する事業としては、ふるさと共育等の新たな取り組みに着手している状況ではあり、取り組みの積み重ねによる今後の成果の発現を目指す。
⑤鷹栖町を好きな子どもの割合	84.5%から増加	-	D	進捗としては、小中学校の教育課程におけるふるさと共育が新たに進み、行政がコーディネートを担いながら、児童生徒が従来よりも多くの地域資源、地域の人材と関わりを持つ機会、量の充実が年々図られている。比較が困難なためD評価。

2. 主な実施計画事業に関する補足説明

実施計画事業名	R2	R3	評価	着手進捗状況、評価の根拠
地域や家庭とともにつくる学校運営の推進	着手		D	■学校運営協議会の取組みを支援。学校、地域、家庭社会の連携による教育を実現するために、各小中学校で協議会を開催している。 【R2～継続】協議会の運営を継続して実施し、一定の地域や家庭からの一定の協力を得ているが、コロナ禍の影響もあり、新たな取組みや関わりの創出には至っていない。 評価指標全体に関連。
児童生徒健全育成事業	着手		B	■スクールカウンセラーを継続配置。 ■スクールソーシャルワーカーをR3から配置。子育て支援相談部門から継続した、一体的な相談体制を整備。学習への課題に限らず、家庭等の複合的な課題に対応していくことが可能となった。 ■学習サポーターが不登校生徒等の学習を個別支援できる体制を継続。 不登校児については微減、横ばいであるが、個別の学習支援、相談支援体制は充実が図られている。 評価指標①②④に関連。
コーディネーショントレーニングを生かした感性を育む教育活動	着手		C	■町の特色であり、運動能力はもとより、運動や各種活動への意欲、自己肯定感や社会性の向上に資することを目的とした「コーディネーショントレーニング」を生かした教育活動を、継続実施。R2までに教育プログラムの開発に取り組んだ成果を生かし、幼児教育、保育現場から、小中学校の教育課程内で継続的に実施する体制の構築に至った。 評価指標③④に関連。
まちを理解し郷土愛を育むふるさと体験活動	着手		C	■小中学校における9年間を通したふるさと共育カリキュラム化に向け、R3年度から本格的に小中学校の教育課程との連携をスタート。町職員が部局横断型でコーディネートをしなが ら、地域理解を深め、主体的に探究するふるさと共育プログラムの持続的な体制構築を目指して、各学校と協働で進めている。小中学校で新たに、町長や地域に向けて学習成果を発表する機会を設けるなどしている。 ■川下りや砂金掘りなど、郷土史料を生かした体験プログラムの実施を、社会教育分野で着手。令和3年度までで5つのプログラムを新規に実施した。 評価指標①④⑤に関連。
青少年健全育成事業	着手		C	■高校生までのふるさと共育の構築を目指し、令和2年度から新たに高校生プロジェクトに着手。中学校卒業後の、町と関わりを継続できる場づくりに取り組んでいる。 ■主に小学生を対象として、地域人材や地域資源が関わる体験活動を継続して実施している。 評価指標④⑤に関連

重点施策評価検証シートの補足説明資料

項目	2 健康のまちづくり
総合評価	C 評価指標の②③に関連して新たな制度を構築の進めており、一定の前進がある。今後はそれらの仕組みを広く展開、活用しながら、評価指標④の向上につなげる。健康は日常の積み重ねによる結果であることから、目指す姿の実現に向けて、あらゆる世代における切れ目ない支援体制を意識して事業を推進する。

1. 評価指標に関する補足説明

評価指標	目標値	中間	評価	着手状況、評価の根拠
①ライフステージごとに整理した健康づくり支援の取り組みの公表	公表	未公表	D	公表に至っていないため、D評価。 今後、着手する見込み。
②健康データを活用する仕組みの構築	構築	構築	A	乳幼児健診、小中学校健診の結果を電子化して一貫して管理し、電子還元アプリによって個人も閲覧できるシステムを新たに導入。 評価指標の達成に至ったためA評価。
③健康に向けた行動変容を促す新たなアプローチの構築	構築	構築	A	インセンティブを付与しながら、デジタル技術も活用して、官民連携により働き世代の健康づくりを促す、新たな事業をR3年度から着手。 事業成果を検証しながら、R4年度にも一部を改善して継続し、持続的でより効果的な事業展開を目指している。 新たなアプローチ手法の構築に至ったため、A評価。内容は改善を続けている。
④普段から健康を意識して生活している人の割合	70.0%以上	-	D	評価指標の数値を得ていない。 受診勧奨や保健指導に継続して力を注ぎつつ、新たな対象へと行動変容を促すアプローチも着手して実施しているところだが、指標としては策定時との比較が困難であり、D評価。

2. 主な実施計画事業に関する補足説明

実施計画事業名	R2	R3	評価	着手進捗状況、評価の根拠
各種健康診査事業	着手		D	■地域に出向く保健指導機会の充実や、健診未受診者への受診勧奨、特定保健指導の拡充に継続して取り組んでいる。 一方でコロナ禍による受診控えの影響もあり、目標とする受診率にまで至っていない現状。評価指標④に関連。
生活習慣病対策事業	着手		B	■教育委員会と連携して、健康データを活用する仕組みの構築、新たな行動変容アプローチの実践に着手。 ■歯科検診の取り組みの充実等を進め、実施計画単位で設定した成果指標に到達している項目がある。 評価指標②③④に関連。
運動習慣化事業	着手		B	■健康福祉課と連携し、これまでアプローチが弱かった、20～50代の働き世代を対象とした健康づくりプログラムに新たに着手。官民連携で、オンラインフィットネスやアプリ等も活用し、インセンティブを付与するなど、従来にはない手法でアプローチを進めている。 ■幼児期からの運動習慣化を目指した教室の開催や運動指導の実施を継続している。 評価指標①③④に関連。
子どもの多様なスポーツ環境整備事業		着手	C	■多様なスポーツ環境、運動に気軽に楽しく触れることができる環境を整備して、生涯にわたる運動習慣を形成していくことを目指して、総合型スポーツクラブを新たに設立する方針を定め、R3から予算化して設立準備に着手。R5に設立の見込みで、プレ事業などを進めているところ。 評価指標④に関連。

重点施策評価検証シートの補足説明資料

項目	3 農業資源を生かしたまちづくり
総合評価	C 新規の取り組みの着手状況や評価指標の進捗から評価すると、順調に組みが進んでいると言える。評価指標①は、マップの作成やたかすマルシェ等の開催が関連する事業となるが、現状維持ではなく、今後、さらに取り組みを充実することで、成果がより一層広がることを見込まれる。他の評価指標についても同様で、事業を適切に検証、改善して継続していく。

1. 評価指標に関する補足説明

評価指標	目標値	中間	評価	着手状況、評価の根拠
①町民が町内農産物を購入しやすい仕組みの構築	構築	構築	A	新たに、直売所マップの作成、更新や、たかすマルシェの開催に組み、一定の仕組みを構築したことからA評価。今後は現状維持ではなく、さらに手法に工夫や改善を重ねることで、町民にとってより充実した環境とブラッシュアップを図る視点を持ち、事業を継続する。
②農業を生かした体験型観光実施箇所数	4カ所から増加	5カ所	A	策定時よりも1カ所増加し、現時点で目標値に到達しているためA評価。 新たに、マイクロツーリズムに着目したツアーの実施などにも取り組んでおり、各実施箇所を点から線へとつなげていく仕掛けを、今後充実させていく。
③農業体験実施後に引き続きまちに関わる意思を持った人数	40人	20人	C	インターンシップなど、域外から町を訪れる学生等を受け入れ、農業とつなぐ仕掛けづくりを継続。町の基幹産業である農業現場を体験し、生産者と直接関わる機会を経て、その後に鷹栖町ふるさとサポーターとしての登録に至る等、参加者が町との継続した関わりを求めることにつながっており、数値も順調に推移していることから、引き続き事業に組み目標値の達成を見込む。
④幼児から高校まで段階に応じた農育プログラムの構築	構築	未構築	C	町内保育園・小学校・中学校・高校の農業体験について、町内の農業者団体（ノースフィールズ、JAたいせつ青年部、地域農業推進会議鷹栖支部）の参画を経て、実施しているところ。今後、幼稚園への関わりや、町内親子を対象とした農業体験への広がりを検討しているところ、計画期間内には目標に到達する見込み。

2. 主な実施計画事業に関する補足説明

実施計画事業名	R2	R3	評価	着手進捗状況、評価の根拠
農業体験交流推進事業	着手 		C	小中学校の農業体験の継続に加え、あったかファームが主導し、鷹栖、北野保育園の体験を、地域農業者及び保護者である農業者の協力のもと、実施するに至った。高校には推進会議鷹栖支部が協力しており、今後は幼稚園や町内一般の親子への体験への新規展開を見込み、農業者が主体的に農育、食育体験を展開していく仕組みとしていく。 中学生の農業体験には、新たに旭川高専の参画を得て、ICT農業の視点による授業を実施することで内容の充実が図られている。 評価指標全体に関連。
農業者と非農業者をつなぐプラットフォーム創造事業	着手 		B	■新たに、直売所マップの作成、更新や、たかすマルシェの開催に取り組み、町民が町内農産物を購入しやすい仕組みの構築を進めた。 ■農業者と非農業者の双方のニーズ、双方が発信した情報の収集に引き続き努めて、つながることで鷹栖町農業が発展していくためのプラットフォームの場づくり、情報発信の方法について、引き続き工夫を重ねる。 評価指標①③④に関連。
多様性と付加価値を高める農業推進事業	着手 		C	■令和3年度から、町内社会福祉法人、地域の農業者と連携した農産物の販売を実施。このほか、町外の福祉事業所と施設外就労制度を活用した農作業等も試験実施し、農福連携の取り組みに着手している。 評価指標全体に関連。
農村資源を生かした体験型観光の推進	着手 		C	■策定時と比較して、農業体験を実施している農業者は増加。また、試験的に関係人口の学生や移住体験等の受け入れを行っているケースもある。 ■新たに、マイクロツーリズムに着目したツアーの実施などにも取り組んでおり、各実施箇所を点から線へとつなげていく仕掛けを、今後充実させていく。 評価指標②③に関連。
観光資源活用ネットワーク化推進事業	着手 		C	■R3年度から、地域おこし協力隊が中心となって「たかすマルシェ」を新たに開催。農産物の販売機会の確保や、新規販売のチャレンジの機会としての機能を果たしている。 ■地場産品の販売や、農業体験による誘客について、マイクロツーリズムに着目し、点から線へとつなげていく仕掛けを、今後充実させていく。 評価指標①②③に関連

重点施策評価検証シートの補足説明資料

項目	4 市街地エリアの魅力づくり
総合評価	C コロナ禍による社会情勢の変化等により、進捗に若干の遅れはあるが、関係機関との協議などを進め、計画策定時と比較すると、将来像の実現に向けて前進している。今後、基本構想や計画をまとめ、それに基づく新規の取組や現行事業の見直しも想定し、具体的な実践に向けて事業を継続する。

1. 評価指標に関する補足説明

評価指標	目標値	中間	評価	着手状況、評価の根拠
①鷹栖市街地の年少人口の割合	11.0%以上維持	10.5%	E	定住対策や子育て支援の充実等により、鷹栖地区における住宅建築数が増加し、生産年齢人口も増加したが、年少人口は減少。相対的に年少人口の割合も減少し、目標値に及ばないため、E評価。
②鷹栖市街地での起業実績	3件	0件	D	鷹栖市街地地区での起業トライアルの場として、R3年度から新たに「たかすマルシェ」を開催。新規開業の支援実績としては、全町的な推移は当初見込みより順調であるが、鷹栖市街地エリアでの起業には至っていない。
③鷹栖町に住み続けた人の割合	80.0%から増加	-	D	シビックプライド(地域に愛着を持って、主体的に関わることを高めるため、地域運営組織の形成やまちLabo等のほか、関係人口の関わりを含めた新たな取組みを実施している。また、定住促進対策や子育て支援策の充実を継続し、全町的にR2、R3と社会増の状況が続いている。指標測定については未実施のため、D評価。

2. 主な実施計画事業に関する補足説明

実施計画事業名	R2	R3	評価	着手進捗状況、評価の根拠
鷹栖市街地エリアマネジメント推進事業	着手		C	コロナ禍による社会情勢の変化等により、進捗に若干の遅れはあるが、基本構想、基本計画の策定に向けて関係機関と協議を進めているところ。
移住定住の促進	着手		B	■総合的な移住定住対策、空き家の流動化に関する取り組みを継続。住宅建築支援では鷹栖地区への誘導策し、従来と比較して利用件数は増加した。地域おこし協力隊の任期満了後の定着率は現段階で100%（該当2人中2人）。シビックプライドの醸成（地域に愛着を持って、主体的に関わること）を見込み、関係人口施策を新たに事業化して展開している。R2、R3年度は人口増減が社会増に転じた。実施計画内の評価指標の推移も、順調に推移している。
新規開業支援事業	着手		C	■新規開業のための補助金制度を継続し、開業時の金銭的支援を実施。空き家等の活用については空き家相談窓口と連携して対応している。R4年度時点で全町的に5件の新規開業実績見込み。
起業に向けたトライアル支援事業		着手	C	■令和3年度から新たに「たかすマルシェ」を開催し、試験的に販売機会を持つことができる仕組みを構築。また金融機関との連携等に基づき、起業に向けたセミナー等の情報支援を継続している。
継業に向けた調査研究事業			D	■R4年度に着手。町と商工会、中小企業診断士、金融機関とで支援体制を構築し、事業者のヒアリングを進め、ニーズ把握とニーズに沿った支援策の構築を目指して進めているところ。

重点施策評価検証シートの補足説明資料

項目	5. 地域運営の基盤づくり
総合評価	C 予定している事業を計画的に実施しており、進捗状況としては、前期計画期間に評価指標の達成を見込んで進めてきているところ。「地域運営モデル地区」や「まちLabo」など、現状で積み上げてきた取組を基盤として、地域とのパートナーシップに基づく協議を継続し、協働による目指す姿の達成に向けて事業を継続する。

1. 評価指標に関する補足説明

評価指標	目標値	中間 (2021年度)	評価	着手状況、評価の根拠
①新たな地域運営体制の構築	構築	－	B	R2～北斗、北成、R3～中央で地域運営モデル地区の取り組み着手。モデル地区ではない地区も含めて、5地区全てで令和5年度に見直し後の組織体制が構築される見通しであり、指標の達成が見込まれる。
②自主防災組織の設立	構築	－	C	R2～地域運営モデル地区のなかで防災も含めた課題把握に着手。R4にはモデル地区で先行して自主防災機能の構築に向けた協議に着手。R5から順次、見直しが図られる地域運営組織において自主防災機能を包含するための協議を具体化させていき、指標の達成が見込まれる。
③町民主体や協働で取り組む地域課題解決の新たな事業	20事業	13事業	B	R2年度、鷹栖町振興補助金の協働まちづくり事業で新規1事業、モデル地区関係で3事業。R3年度からまちLaboを新規実施。まちLabo関係で6＋1事業、モデル地区関係で1事業、関係人口の関わりで1事業。 新たな事業(まちLabo)にも着手して成果が発現しており、最終年を待たずに目標値の達成が見込まれる。
④まちづくりに関するワークショップ、セミナーの開催	毎年開催	毎年開催	C	まちづくりセミナーとしてR2年度、R3年度に2テーマずつ開催。R4にも1テーマで継続開催しており、一定の参加規模を維持しているとともに、学びを各施策の充実に生かしている。(農村活性化、地域おこし協力隊、市街地活性化、関係人口、SDGs)
⑤行政計画策定時の住民参加機会の確保	確保	確保	D	計画策定時の住民参加機会の確保を維持しているほか、町長への手紙、まちづくり懇談会、移動町長室を開催。

2. 主な実施計画事業に関する補足説明

実施計画事業名	R2	R3	評価	着手進捗状況、評価の根拠
持続可能な地域形成推進事業	着手 		B	■地域運営モデル地区の取り組み【R2～着手】 R2～北斗、北成、R3～中央で取り組み着手。 ・地区計画策定に向けた会議の開催支援 ・先進地の視察研修の実施 ・トライアル事業実施のための補助(300千円/地区) ・防災に関する補助(R4～200千円/地区) 5地区全てで令和5年度に見直し後の組織体制が構築される見通し。評価指標①②③に関連。 ■まちLabo【R3～実施】 町内外から若者を中心に約30名が参加。町の資源やチームビルディングの手法を学び、自主企画事業を実践。まちづくりに意欲を持った参加者同士の横のつながりの構築や、居住地区の地域運営組織での活動、企画提案した事業の継続活動を目指す動きにもつながる。R3、R4と、6つずつのプロジェクトを実践し、評価指標①②に関連。 ■まちづくりセミナーの開催【R2～継続】評価指標⑤に関連
地域防災力の強化	着手 		C	■R2に防災無線を全町配備(ハード的整備) ■R2～地域運営モデル地区のなかで防災の課題把握にも着手。R4にはB&G防災拠点事業も活用し、モデル地区で先行して自主防災機能の構築に向けた協議に着手。R5から順次、見直しが図られる地域運営組織において自主防災機能を包含するための協議を具体化させていき、評価指標②を達成する基盤の構築が進んでいる。
住民参加のまちづくりの推進	着手 		C	■R2～3年度、鷹栖町振興補助金の協働まちづくり事業で新規1事業、継続1事業、自主活動事業で7事業が実施されている。 ■町長への手紙、まちづくり懇談会、移動町長室(R3～)を継続。